

Title	心理研究部門(I 研究所の概要)
Author(s)	室伏, 靖子; 浅野, 俊夫; 小嶋, 祥三; 松沢, 哲郎
Citation	霊長類研究所年報 (1986), 16: 15-17
Issue Date	1986-09-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/163671
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

roschi. Abs., 11: 1274.

- 14) 久保田競 (1986): 大脳の機構の解明。月刊薬事, 28: 29-33.
- 15) Arikuni, T. and Kubota, K. (1986): The organization of projections and their laminar origin in the macaque monkey: A retrograde study using HRP-Gel. J.C. Neurol., 224: 492-510.
- 16) Sawaguchi, T., Matsumura, M. and Kubota, K. (1986): Long-lasting marks of extracellularly recorded sites by carbon fiber glass micropipettes in the frontal cortex of chronic monkeys. J. Neurosci. Methods., 15: 341-348.

学会発表

- 1) 三上章允 (1985): サル上側頭溝後壁MT領野ニューロンの方向選択性と加算効果。第9回神経科学学会。予稿集: 54.
- 2) 沢口俊之・松村道一・久保田競 (1985): サル前頭前野背外側部における視覚性反応時間タスク関連ニューロンの深さ分布。第9回神経科学学会。予稿集: 75.
- 3) 松村道一・沢口俊之・久保田競 (1985): 随意運動時のサル運動野におけるGABA抑制と皮質層構造について。第9回神経科学学会。予稿集: 110.
- 4) 有国富夫・高須伸夫・中谷利夫・安達栄治郎・渡辺京子・久保田競・木村 宏 (1985): マカクサルのGABAニューロン。第9回神経科学学会。予稿集: 110.
- 5) 久保田競 (1985): サルの前頭前皮質のニューロン活動と行動。第81回日本精神神経学会総会。精神神経学雑誌。87: 799-800.

心理研究部門

室伏靖子・浅野俊夫・小嶋祥三¹⁾・松沢哲郎

- 1) 昭和61年1月16日付、神経生理部門助教授に昇任。

研究概要

- 1) チンパンジーの図形語による記述行動の分析。一語順による統制一

室伏靖子・浅野俊夫・小嶋祥三・松沢哲郎
チンパンジー (アイ) に, [主体] [近づく] [客体] の3語記述を訓練し, 般化テストをくりかえした結果, 高い正答率を得るに至った。

- 2) チンパンジーにおける数の概念の形成²⁾

室伏靖子・浅野俊夫・松沢哲郎・板倉昭二³⁾
ドットのランダム・パターンを見てその数をアラビア数字で選ぶことと, その数の系列的タッピングを要求した。各課題で7個と5個を完成した。

- 3) チンパンジーの心的回転 (mental rotation) に関する実験。

ベルナデット プレザール⁴⁾・室伏靖子・浅野俊夫

チンパンジーに, 鏡映図形の間の弁別を見本合せ法を用いて訓練し, 図形を回転させてもなお正立図形として同定できるか否かをテストした。

- 4) チンパンジーにおける刺激等価性の獲得に関する実験的分析

浅野俊夫⁵⁾

ヒトの言語習得過程において, もともと異なった刺激が機能的に等価な性質を獲得する過程が重要であることが明らかにされて来ているので, その過程をチンパンジーで吟味する。

- 5) ニホンザルとヒトの明るさ判断に関する比較研究

シェイラ チェイス⁶⁾・室伏靖子・浅野俊夫
心理物理学的方法を用い, 種々の輝度レベルの光刺激の明るさの絶対的判断が5~9個の選択肢場面で訓練された結果, ニホンザルとヒトでは可能な情報伝達量の相違が示唆された。

- 6) ニホンザルの集団場面におけるオペラント行動の獲得と伝播⁷⁾

浅野俊夫

放飼場の若桜群を対象にして, パネルを押すと食物が入手できるという新しい行動を集団場面で

- 2) 本吉良治 (京大文)・山田恒夫 (阪大人科) との共同研究。

- 3) 大学院生。 4) 招へい外国人研究員。

- 5) 山本淳一 (慶大大学院) との共同研究。

- 6) 京大客員教授。

- 7) 樋口義治 (愛知大) との共同研究

の条件づけによって形成し、伝播する様子を観察した。今後はトークン使用の伝播を分析する。

7) オペラント強化の性質に関する実験的研究
浅野俊夫⁹⁾

ニホンザルの摂食行動において、摂食スケジュールがオペラント行動の強化子の強化力にどのように関与するかを、エコロジーと環境適応における行動の配分(行動経済)の観点から分析する。

8) 霊長類の聴覚と音声の研究

小嶋祥三

チンパンジーを用いて、音の大きさ、自然および合成日本語母音、音節などの知覚や合成破裂子音によるカテゴリー知覚の検討、乳幼児の音声の音響分析を行った。ニホンザルでは同種の音声の弁別や記憶、日本語母音の弁別を研究している。

9) 霊長類乳幼児の行動発達⁹⁾

松沢哲郎

ヒト、チンパンジー、オランウータン、ニホンザルを主たる対象として、出生直後からの姿勢制御と認知機能の発達の種間比較をしている。

10) チンパンジーの短期記憶再生過程の研究

藤田和生¹⁰⁾・松沢哲郎

チンパンジーに要素図形から複合図形を再構成する課題(構成見本合わせ)場面で、複合図形の提示と再構成との間に遅延を設けて短期記憶再生過程を調べた。同課題のヒトの資料と比較した。

11) 感覚性強化による霊長類の種の認知の研究

藤田和生

霊長類が、自身の種や他の近縁種をどのように区別しているかを、それらの写真の感覚性強化刺激としての機能に基づいて調べている。マカク属の種間比較と発達過程の研究を行っている。

総 説

- 1) 浅野俊夫(1985):動物の意識。伊藤正男編, 脳と意識, 東京:平凡社, 13-34.
- 2) 小嶋哲也・浅野俊夫(1985):子どものトークン・システム。異常行動研究編, オペラント行動の基礎と臨床, 東京:川島書店, 96-

111.

- 3) 室伏靖子(1985):行動研究の方法;見えの世界;音の世界。江原昭善他編, 霊長類学入門, 岩波書店, 171~177:194~219.
- 4) 松沢哲郎(1985):言語の起源を探る - チンパンジーの「言語」能力 - 遺伝, 39:35~39.

論 文

- 1) Matsuzawa, T., Asano, T., Kubota, K., and Murofushi, K. (1986): Acquisition and Generalization of numerical labeling by a chimpanzee. In Current Perceptions in Primate Social Dynamics (Tanb, D.M. and King, F.A., Eds.):416-430.

学会発表

- 1) 浅野俊夫(1985):ニホンザルの食事パタンの実験的分析。第45回日本動物心理学会大会, 動心年報, 35:47.
- 2) 室伏靖子・浅野俊夫・松沢哲郎(1985):チンパンジーにおける記号を用いた数のマッチング。第45回日本動物心理学会大会, 動心年報, 35:59.
- 3) 浅野俊夫(1985):ニホンザルの食事パタンの分析; food FRの効果。第4回日本基礎心理学会大会。
- 4) 室伏靖子・浅野俊夫・松沢哲郎(1985):チンパンジーにおける主体と客体の記述一語順による統制一。第49回日本心理学会大会, 発表論文集:560.
- 5) 松沢哲郎・浅野俊夫・室伏靖子(1985):チンパンジーにおける個体名の習得。第49回日本心理学会大会, 発表論文集:561.
- 6) 田中昌人・竹下秀子・松沢哲郎(1985):ニホンザル, チンパンジー, オランウータン乳児の視覚的探索における対形成について。第49回日本心理学会大会, 発表論文集:146.
- 7) 小嶋祥三(1985):チンパンジー乳幼児の音声の音響分析。第49回日本心理学会大会, 発表論文集:147.
- 8) 小嶋祥三(1985):チンパンジーの音声知覚と音声発達。生理学研究所研究会(発声と音声認識機構), 抄録集:1~2.
- 9) Kojima, S. (1985): Vowel Perception in

- 8) アラン・シルバーバーグ(アメリカン大学)との共同研究。
- 9) 田中昌人・竹下秀子(京大教育)との共同研究
- 10) 学振奨励研究員(1985年4月~9月), 学振特別研究員(1985年10月より)

a chimpanzee. 9th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society.

- 10) 平林秀樹・宇野浩平・日野原正・栗山杉夫・小嶋祥三(1985):ファイバースコープによるニホンザル、チンパンジーの声帯運動の観察。第37回日本気管食道科学会。
- 11) 鎌田 勉・亀田和夫・小嶋祥三(1985):ニホンザル大脳聴覚野ニューロンのサルの音声に対する反応。第65回北海道医学大会生理系分科会。日本生理学雑誌 48, 85, 1986。
- 12) 小嶋祥三(1986):チンパンジーの聴覚、音声知覚、発声。日本音響学会音声研究会、資料番号 S 85-88。
- 13) 小嶋祥三(1986):チンパンジーの聴覚、音声知覚、発声。日本音響学会音声研究会資料 S 85-88, 687~693。
- 14) 藤田和生(1985):霊長類における種の認知—感覚性強化による検討—。日本心理学会第49回大会、発表論文集、559。

社会研究部門

川村俊蔵・鈴木 晃・小山直樹・森 梅代¹⁾

研究概要

- 1) インドネシア・シボラ島における各種霊長類の社会・行動学的研究

川村俊蔵

スマトラ島の南シボラ島に生息する *Macaca pagensis*, *Presbytis potenziani* 他 2 種の観察を行い、特に行動型からの系統的関係について資料を集め、考察を行った。

- 2) スマトラにおけるブタオザルの社会学的研究

川村俊蔵・大井 徹²⁾

従来、世界的に研究の遅れているブタオザルの長期的社会学的研究をスマトラにおいて続行した。

- 3) インドネシア・カリマンタンにおけるオランウータンの社会行動と社会構造に関する研究

鈴木 晃

東カリマンタン・クタイ保護区に生息するオランウータンの社会・行動学的研究を 1983-84年に

引き続き、本年は 7 カ月行った。森林内でのオランウータンの個体の布置構造を記録し、社会構造に関する討論を行った。

- 4) インドネシア・クタイ国立公園の 1982-83 年の乾燥と大山火事の影響と霊長類の分布調査

鈴木 晃

1982-83 年の東カリマンタンの乾燥と大山火事の影響と霊長類の分布状態に関する調査を行った。1983-84 年の内陸の調査に引き続き、今回はセンガタ川上流へのカヌーによる調査を行い、その概要を把握し、従来の知見に新たな資料を加え、インドネシア政府に報告した。

- 5) 木曽研究林におけるニホンザルの群れの社会学的研究

川村俊蔵

ニホンザルに関しては、木曽研究林 S 群の餌づけに成功し、ブラインドによる観察の結果、成獣・亜成獣オスの全個体、同じくメスの一部の個体識別を行い、個体原簿作成にとりかかった。また A 群の早春期の遊動のトレースを行った。

- 6) ニホンザルの地域個体群の動態と群れのスペーシングに関する研究

鈴木 晃

上信越ニホンザル研究林、房総半島において、ニホンザルの地域個体群の土地利用、個体群動態、遊動におけるスペーシングの問題、オスの群れの離脱等に関する調査を継続して行っている。

- 7) ニホンザルのメスの繁殖成功度と個体歴

小山直樹

嵐山群の出産データーの解析から、出産歴と初産年齢とは、翌年の出産時期の早遅に影響を及ぼしているという傾向が見られた。また優位のメスが劣位のメスより繁殖上有利かどうかの検討を行ったが、一定の規則性を見出すことは難しく、むしろ出産率の高低には、母親の年齢という要素が強く働いていることをうかがわせる結果であった。

- 8) ニホンザルの社会的発達に関する研究

森 梅代

幸島群を対象にメスの育児行動、離乳期の子どもと母親の相互交渉、成長にともなう社会関係の変化などを中心に分析し考察している

総 説

- 1) 鈴木 晃(1985):環境科学辞典(荒木・沼

1) 教務職員 2) 大学院生